

平成25年度 大学院薬学系研究科授業時間割

夏学期（於：大学院講義室）

時間 曜日	10:30~12:00	16:40~18:10
火	基礎薬科学特論Ⅰ（担当：井上(将)教授） （科目番号：430009110）	基礎薬科学特論Ⅱ（担当：三田准教授） （科目番号：430009120）
木	クリニカルサイエンス特論（担当：楠原教授） （科目番号：430009380）	
金	基礎薬科学特論Ⅲ（担当：三浦教授） （科目番号：430009130）	基礎薬科学特論Ⅳ（担当：松木教授） （科目番号：430009140）

○開講期間：4月5日（金）～7月26日（金）

火：4/ 9, 16, 23, 30 5/ 7, 14, 21, 28 6/ 4, 11, 18, 25 7/ 2, 9, 16（計15回）

木：4/11, 18, 25 5/ 2, 9, 16, 23, 30 6/ 6, 13, 20, 27 7/ 4, 11, 18（計15回）

金：4/ 5, 19, 26 5/10, 17, 24, 31 6/ 7, 14, 21, 28 7/ 5, 12, 19, 26（計15回）

冬学期（於：大学院講義室）

時間 曜日	10:30~12:00	16:40~18:10
月		医薬品評価科学特論（担当：松木教授） 注1 （科目番号：430009360）
火	ケミカルバイオロジー特論（担当：内山教授） （科目番号：430009200）	細胞生物学特論（担当：堅田教授） （科目番号：430009220）
金	疾患生物学特論（担当：関水教授） （科目番号：430009280）	社会薬学特論（担当：津谷特任教授） （科目番号：430009320）

○開講期間：10月1日（火）～12月20日（金）

月：10/ 7, 21, 28 11/11, 18, 25 12/ 2, 9, **20(金)注2**（計9回）

火：10/ 1, 8, 15, 22, 29 11/ 5, 12, 19, 26 12/ 3, 10（計11回）

金：10/ 4, 11, 18, 25 11/ 1, 15, 22, 29 12/ 6（計9回）

1月10日（金）～2月18日（火）

月：**1/14(火)注2**, 20, 27 2/ 3, 10, 17（計6回）

火：1/21, 28 2/ 4, 18（計4回）

金：1/10, 17, 24, 31 2/ 7, 14（計6回）

注1）「医薬品評価科学特論」は、西講義室で行う。時間は、16:00～17:30とする。

注2）12月20日（金）及び1月14日（火）は、月曜日の開講科目「医薬品評価科学特論」を開講する。

平成25年度 薬学系研究科授業概要一覧

【共通科目】

○は本年度開講

授業科目	単位	授業概要	学期	曜日	時間	担当
○基礎薬科学特論Ⅰ	2	すべての薬学系研究分野において化学的な基礎となる化学体系の概念を理解します。	夏	火	10:30-12:00	井上(将)
○基礎薬科学特論Ⅱ	2	生体分子のX線結晶構造解析法、NMRによる構造解析と、蛍光法、質量分析法による高感度分析、天然有機化合物の生合成機構、ケミカルバイオロジーによる創薬について学びます。	夏	火	16:40-18:10	三田
○基礎薬科学特論Ⅲ	2	生物系薬科学分野に含まれる生化学、分子生物学、細胞生物学、分子遺伝学、疾患生物学等の基礎を学びます。	夏	金	10:30-12:00	三浦
○基礎薬科学特論Ⅳ	2	医療薬学分野の中から、薬物動態学、基礎薬理学、病態学、医薬品情報学、評価科学、医薬経済学およびビジネス学などの基礎事項を学びます。	夏	金	16:40-18:10	松木
○ケミカルバイオロジー特論	2	ライフサイエンスと関わりをもつ先端的薬学研究を行うために必要な化学体系を学びます。	冬	火	10:30-12:00	内山
生体分子解析学特論	2	X線結晶解析、核磁気共鳴法、1分子蛍光イメージング法や生体分子の高感度分析法などの原理を解説し、生体分子の構造と機能の解析法と応用例を紹介します。				
○細胞生物学特論	2	細胞生物学的な視点から、生物系薬科学分野における最新の研究動向を紹介します。	冬	火	16:40-18:10	堅田
分子生物学特論	2	生体を遺伝子やタンパク質などの分子機能から理解し、遺伝学や生化学の最新手法を会得しながら、疾患の病態生理学を含めて分子レベルでの最先端の生物学を学びます。				
○疾患生物学特論	2	感染と免疫を主な対象に、生物学的な視点から、背景となる学問体系と疾患発症に至る機構を概説します。	冬	金	10:30-12:00	関水
医療薬学特論	2	医療と薬学に関する先端的な研究をオムニバス形式で学びます。				
○社会薬学特論	2	薬学と社会とのかかわりについて、情報、統計、政策、経営、製薬企業など、多様な視点から理解を深めます。	冬	金	16:40-18:10	津谷
○科学英語特論	2	薬学に関するトピックスを英語で学ぶ講義で、リスニングとスピーキングの両方が鍛えられます。	集中			新井
○医薬品評価科学特論	2	新医薬品の有効性・安全性・リスクベネフィットの評価を行うための実践的な方法論及び規制の仕組みを学びます。	冬	月	16:00-17:30	松木
○クリニカルサイエンス特論	2	疾患の病態生理から薬物動態、臨床薬理、臨床試験まで、薬物治療の基本と臨床開発について臨床的側面から学びます。また、癌の診断、治療、臨床試験の実際を、臨床病理、内科、外科、放射科等の専門家から学び、病気としての癌の理解を目指します。	夏	木	10:30-12:00	楠原

【薬科学専攻(修士課程)】

授業科目	単位	授業概要	担当
○ 薬科学特別研究Ⅰ	20	演習・セミナーや研究室で個別に設定された研究活動等を通じて、専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や高い分析能力を学ぶ。	担当教員

※薬科学専攻修士課程のみ履修可、履修登録不要

【薬科学専攻(博士後期課程)】

授業科目	単位	授業概要	担当
○ 薬科学特別研究Ⅱ	20	研究室で個別に設定された研究活動等を通じて、深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や高い分析能力を学ぶ。	担当教員

※薬科学専攻博士後期課程のみ履修可、履修登録不要

【薬学専攻(薬学博士課程)】

授業科目	単位	授業概要	担当
○ 医療薬学実践研究	4	研究室と研究科内外の関連施設が連携し、高度化医療などの現場で社会のニーズに応え得る実践的な方法論と問題意識・主体性を習得する。詳細は、別紙【薬学博士課程授業科目「医療薬学・社会薬学・創薬学実践研究」について】を参照すること。	担当教員
○ 社会薬学実践研究	4	研究室と研究科内外の関連施設が連携し、医療行政などの現場で社会のニーズに応え得る実践的な方法論と問題意識・主体性を習得する。詳細は、別紙【薬学博士課程授業科目「医療薬学・社会薬学・創薬学実践研究」について】を参照すること。	担当教員
○ 創薬学実践研究	4	研究室と研究科内外の関連施設が連携し、創薬などの現場で社会のニーズに応え得る実践的な方法論と問題意識・主体性を習得する。詳細は、別紙【薬学博士課程授業科目「医療薬学・社会薬学・創薬学実践研究」について】を参照すること。	担当教員
○ 薬学特別研究	20	演習・セミナーや研究室で個別に設定された研究活動等を通じて、医薬の創製からその適正使用に向けた生命に関わる物質及びその生体との相互作用を対象とした統合的な方法論を学ぶ。	担当教員

※薬学専攻薬学博士課程のみ履修可、薬学特別研究については履修登録不要